

3年生情報ビジネスコースによる課題研究発表会と

高大連携による授業が、新三河タイムスに掲載されました。

(11月26日 木曜日)

ム ス 2020年(令和2年)11月26日(木曜日) 4

売れる色は？無人店舗の普及を

衣台高3年生が研究発表会

豊田市太平町の衣台高校(十屋秀弘校長、生徒581人)情報ビジネスコース3年生が20日、津妻交流館(田町)で課題研究発表会を行った。

【岡田さち代】

生徒らは各自研究テーマとして「売れる色と売れマを決め、主体的に研究しない色」などをテーマに進める授業「課題研究 文献やアンケート結果など」に取り組み、8人がどこから考察し、パワーポイントで発表し、「無人店舗のイントロでまとめて発表し普及」「着物の復活に向けた」

同校は1974年創立で2007年に情報活用コースを設置し、18年から市内の普通科で唯一の情報ビジネスコースを設けている。普通科としての学習を基礎基本に置きながら、情報系またはビジネス系を選択し、進学や就職に有利となる資質や能力を身に付けること



(上) 研究発表会を開催する生徒
(下) 高大連携授業を受ける生徒

20日、豊田・田町の津妻交流館で、衣台高校で

社会で役立つビジネス課題探る

18年度まで同コースを受け持っていた小牧高校教諭の井手広康さんは「1年間の課題研究で学んだことは生きていく力になる。社会に出て役立つと思え」と講評。

「キャッシュレス決済について」をテーマに発表した室長の坂口航太さん(18)は「緊張したが達成感があった」。担任の天川勇規さんは「発表は授業としてだけでなく集大成クラス全員で団結して完成させることができた」と話していた。

また、同校では17日、高大連携「大学講師による模擬授業」が行われた。同コース2年生は愛知教育大の安本太一教授から「Python3によるプログラミング入門」をテーマに情報についての専門的な知識を学んだ。